

山岡 和子（京都府舞鶴市）

1. 緒言

広島県にて水難事故防止活動を行ってきた中で、水難学会指導員としての「ういてまて教室」が、様々な他団体と協力する事によって起きた変化や影響を、事例をもとに考えてみる。

主に、下記の団体との関わりによって行われた水難防止活動の事例を紹介する。

（1）PW 安全協会

水上オートバイのメーカー及び取扱い販売者が主体となって、安全啓蒙活動を実施している。

（2）日本水難救済会（広島県）

救難所（レスキューステーション）として登録しているマリナーや漁協、自治体等が、海難の一報を受けた時に人や船の救助に向かう民間ボランティア団体。

（3）広島海上保安部

（4）NHK 広島放送局（NHK 潜水班）

2. 事例

① 広島ボートショー

ボートショー会場の水面を利用した PWC（水上オートバイ）レスキューと「ういてまて」のデモを行った。また、安芸ライフセービングクラブのライフセーバーともコラボ活動を行った。

② 海の安全教室

広島県水難救済会の主導で、広島県水難救済会と海上保安部による安全啓蒙活動を実施した。着衣泳指導を水難救済会が担当し、ライフジャケットの着用体験指導等を海上保安部が担当し、海の安全教室を行った。

③ 水の魅力と危険性・対処法を学ぶワークショップ

本ワークショップは、NHK 広島放送局が主導となり、海上保安庁・水難救済会・NHK 潜水班とのコラボ企画で、2023 年から実施した。具体的には、水遊びの楽しさと水難事故に対する備えをパッケージにして、それぞれの専門家が出前授業を行った。プール実技では、NHK 潜水チームが水中カメラを駆使して「着衣泳」や「ライフジャケット体験」に関する映像を撮影した。同時に、プールサイドに設置したモニター画面で、受講生徒さんはリアルタイムに水中での様子を見ることができた。

3. 結果と考察

水難事故防止活動を行っている組織やグループは、官民含めて数多く存在し活動している。

特色や活動はそれぞれだが、「水難事故を一つでも減らしたい」、「悲しい事故から、一人でも多く助かりますように」との願いは同じ方向であるため、総じて良いコラボレーションが生まれやすい。

しかし、それぞれの思惑もあるためメリットばかりではなくデメリットも生まれる。

また、どれか1つの組織に関わっているだけではなく、複数の組織に関わっているからこそそのメリット、デメリットも気づくことができた。

他団体とのコラボで得た「違い」は、時に混乱を招くが、上手に整理できれば相手の良さを活かし、こちらも生きる大チャンスにもなる。他の指導員の方の体験したコラボ企画の情報交換や、前向きなコラボレーションが生まれるような意見交換を地道に進めていきたい。